

窓

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター



「福島県教育センターの役割」

研究・研修部長 鈴木 睦治

昨年11月5日～6日、コラッセふくしまを会場に平成27年度全国教育研究所連盟研究協議会福島大会が開催された。その際に「基調提案」をさせていただいたが、改めて福島県教育センターの役割について考える好機を与えていただいた。以下は、そこで述べたものの概要（一部改め）である。これにより、教育センターの役割をご理解いただき、今後も是非教育センターを大いに活用していただきたい。

<福島県の教育>

まず、知徳体の各視点でとらえた福島県の児童生徒の姿は次のとおりである。

- 「平成27年度全国学力・学習状況調査結果」より
小学校国語及び小・中学校理科は概ね全国平均であるが、中学校国語は全国平均をやや下回っており、小学校算数及び中学校数学は全国平均を下回っている。
- 「平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」より
『暴力行為の発生件数等』は全国で2～3番目に低く、『不登校の児童生徒数等』も、全校種で全国平均よりかなり低い。『中途退学者数等』についても、過去5か年全国で1番低い。
- 「平成26年度全国体力・運動能力等調査結果及び学校保健統計調査結果」より
体力合計点平均については、小学5年男女、中学2年男女ともに、全国平均を下回っている（平成27年度調査結果ではやや改善され、小学5年女が全国平均を上回った）。さらに、肥満傾向児出現率は全校種で高く、全国1～2位の学年層が複数ある。

次に、教員と学校という教育環境については、以下のとおりである。

福島県の教員については、すべての校種で教員の高齢化が進んでおり、平均年齢46.8歳である。若年教員が極端に少ない先細り状況で、年齢構成のバランスが悪い。福島県の学校については、震災後大幅

な見直しや変更を余儀なくされている。特に、原発事故に伴う避難区域の学校の実状は他に類を見ない。仮設校舎や他の校舎、他の施設へ移転している学校数は小学校20校、中学校13校、高校等9校もある。さらに、休校状態の学校が小・中学校で6校あり、厳しい教育環境であることは否めない。

<福島県教育センターの取組>

こうした福島県の教育の現状を踏まえ、福島県教育センターは教員の資質能力の向上こそが復興・再生をめざす本県教育の基軸と捉え、大きく次の3事業に努めてきた。

1 研修事業

県教委の「福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づき、基本研修・職能研修・専門研修等のほとんどすべてを一元化して行っている。将来を見据えた教員研修体系を検討し、様々な機会に提案も行ってきた。平成27年度小・中・高新規採用者より、2年次教員フォローアップ研修を実施することが可能になった。

2 調査研究事業

教員の資質能力の向上及び教員研修に視点を置いた実践的な調査研究を行っている。平成26・27年度は、県教委承認の下、「授業力の向上に係る校内研修の在り方」「情報モラル教育に関する研究」「児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究」の三つを調査研究課題として進めてきた。

3 カリキュラムセンター事業

学校や市町村教育委員会等の教育機関を対象に指導主事等を派遣して教員の資質向上のための支援を行っている。現地研方式の出前講座「運動身体づくりプログラム講座」「小学校理科実験基礎講座」も高い評価を受けている。（平成26年度指導主事等派遣件数281件 受講者総数12,458人）

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

| | | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 編集発行 | ： 福島県教育センター 〒960-0101 | 福島市瀬上町字五月田16番地 |
| | TEL 024-553-3141 (代表) | FAX 024-554-1588 |
| | URL http://www.center.fks.ed.jp/ | E-mail center-kikaku@center.fks.ed.jp |